



茨城のスポーツ少年団

第38号 発行／平成30年3月23日 編集／公益財団法人茨城県体育協会茨城県スポーツ少年団

TEL 029-303-7222 FAX 029-243-0030 URL <http://www.ibaraki-sports.or.jp/ibarakiken/>



駅伝競走大会



第53回茨城県スポーツ少年団大会



日独同時交流派遣事業



国民体育大会結団式

平成三十年八月、本県にて全国の団員・指導者が集い、リーダーの育成を目的とした交流を行う第五十六回全国スポーツ少年大会が、行方市をメイン会場

ただけたら幸いです。
今後、多くの指導者にACP普及促進研修会へご参加いただき指導レベルの向上へと繋げていただけたら幸いです。
今年度は、ACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）普及促進研修会が、鹿嶋市・日立市・東海村の三会場にて実施されました。
今年度より三歳からスポーツ少年団登録が可能になり、本県の三歳から五歳までの団員登録数は二六一名となりました。対象に合わせた質の高い指導が求められております。今年度は、ACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）普及促進研修会が、鹿嶋市・日立市・東海村の三会場にて実施されました。

平素より、本県スポーツ少年団事業に対しご尽力を賜りまして、誠にありがとうございます。
平成二十九年度のスポーツ少年団事業も、茨城県スポーツ少年団指導者並びに関係の皆様方のご協力により、無事に終了することができました。心より感謝申し上げます。



茨城県スポーツ少年団
本部長 高山 能昌



第56回全国スポーツ少年大会シンボルマーク

に開催されます。茨城団体の前年に開催されるスポーツ少年団のビックイベントとして、県内各地へのリーダー活動の周知、子ども達の少年団活動への関心を高めると共に、茨城県スポーツ少年団の発展に繋がられる大会にしたいと考えております。来年の、いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会、その翌年の2020東京オリンピック・パラリンピックへと繋げることができるよう、茨城県スポーツ少年団が一致団結し、精一杯取り組んで参りますので、皆様の一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。
結びに、スポーツ少年団関係の皆様方のご支援ご協力に對しまして、重ねて御礼申し上げますと共に、各スポーツ少年団のさらなる飛躍を祈念いたしまして、挨拶いたします。

第44回

日独スポーツ少年団同時交流

受入 牛久市

7月31日～8月5日

ホストファミリー

片岡 憲一

初めての国際交流にして三名の女の子を受け入れるということで、家族全員緊張しながら初日を迎えました。初対面であるにもかかわらず、彼女たちはドイツから持参した沢山のお土産と幼い頃からの成長を記したアルバムを見せ、私たちの緊張をほぐしてくれました。娘二人と息子に対し、本当の妹・弟のように優しく接してくれ、安心して初日を終わることができました。ファミリーデーには海に行きたいという要望を受け、大洗水族館と海へ行きました。様々な日本食にも挑戦し、子供たちと楽しそうに笑い合っている姿を見て、別れがとても惜しく感じました。

最終日の見送りでは、妻も娘も涙を見せる場面があり、貴重な経験ができたことに心から感謝しました。別れ際、彼女たちに「また片岡家においで。」と伝えると涙ながらに「もちろん。」と答えてくれました。そのときの彼女たちの表情は、今

もこれからも忘れることはないでしょう。最後に皆で撮った集合写真は私たち家族の大切な思い出として、リビングに飾られています。



派遣 ドイツ

7月31日～8月17日

行方市スポーツ少年団

本部長 川島 信義

昨年、行方市ではヘッセン州からドイツ団を受け入れ、今年は私が指導者としてドイツを訪問してきました。

我々の関東Ⅱグループはフランクフルトとギーセン市を訪問しました。前半のフランクフルトではサッカー日本代表の長谷部選手が所属するアイントラハ

トフランクフルトを拠点として活動しました。そのフランクフルトでは、グランドホッケー・トライアスロンの自転車・フリスビー・ブレイクダンス・テニスなど日本ではなかなか体験できない競技を含め体験しました。ハイキングでは標高六〇〇メートルの山を登り、頂上でいただいた昼食は格別でした。また、見学においては、ローマ式砦ザールブルクで当時の兵士の桶、剣（木製）を使った戦術の体験をしました。

次の訪問地であるギーセン市へ移動し、TSVクライリンドンクラブを拠点にして活動を行いました。早速、陸上競技のバジテスト（スポーツテスト）で三〇〇メートル走を行い、私も何とか走破することができ、クラブの責任者始め関係者から称賛の言葉をいただき感激しました。

その他、ギーセン市長の表敬訪問ではその時の様子が地元新聞に掲載され、また市庁舎は全面ガラス張りです。市民に開放された施設をアピールし、図書室やアート展示場などが備わっていました。

ギーセン市では雨に見舞われ、

その分日本では馴染みのない数学ミュージアムや米軍撤退後の施設を活用した難民受け入れ施設の見学を行い、貴重な体験ができました。

ドイツは運動施設が天然芝や人工芝で整備されており、子供から年配者に至るまでスポーツを楽しむ親しんでいて、スポーツに対する関心の高さを感じました。また、今回のドイツ訪問を通じ改めて交流のすばらしさを実感しました。今後も、一人でも多く日独同時交流に参加していただくことを願います。



潮音彩スポーツ少年団

岩間 朱香

私は十八日間で沢山の人に出会い、沢山の想いに触れました。ホームステイ先を含めた受け入れ地域では、思っていたよりもずっと私達を盛大に歓迎してくれて、その心遣いにとっても感動



しました。私も人を感動させる心遣いができる人になりたいと思いました。また、ドイツでは初の体験・経験はもちろん、沢山の「初めて」がありました。それはとても刺激になり、様々なことに気付き、自分の中の視野を広げ、考えを変え、自分にとっての財産となりました。それらによってステイブジョブズの演説の一つ「点と点をつなぐ」という意味も身をもって自分なりに解釈することができて嬉しかったです。他にもここには書ききれない沢山の発見や学ぶこと、思い出があります。それができたのは、出会いがあって、一つ一つの会話や関わりがあって、それを支えてくれる人の力があつたからです。その全てに感謝しています。そして、この素晴らしい思い出を胸にこれから繋げていきたいです。

日独同時交流とは？

日本とドイツ両国のスポーツ少年団指導者・団員がスポーツ活動を中心として、相互の文化・生活・習慣を実際に体験する国際交流です。今年度は牛久市にて指導者1名・団員11名を受け入れ、茨城県を代表して指導者1名・団員1名が派遣されました。県内各地からの応募をお待ちしています。

平成29年度

日本スポーツ少年団

表彰楯授与式

9月2日
筑西市

受賞市町村

・下妻市スポーツ少年団
・龍ヶ崎市スポーツ少年団
・那珂市スポーツ少年団

退任指導者

・木村 洋 (下妻市)
・鈴木 貞司 (ひたちなか市)

受賞指導者

・菊池三喜男 (東海村)
・小関 広一 (水戸市)
・佐藤 幹夫 (取手市)
・佐藤 英男 (日立市)
・鈴木 正二 (日立市)
・兼平 光典 (行方市)
・吉田 重夫 (行方市)

下妻市スポーツ少年団

本部長 柴崎 清一

この度、名誉ある日本スポーツ少年団表彰をいただき、誠に光栄でございます。

下妻市スポーツ少年団は、昭和五十年代に発足し、平成十九年に下妻市と旧千代川村が合併しました。現在は九種目、三十団体が活動しております。

主な事業としては、単位団同士の交流を目的とした駅伝・マラソン大会、地域の環境美化を目的とした奉仕活動(ごみ拾い)、団員と保護者の交流を図る親子ふれあい筑波登山などを実施しております。

また、下妻市と災害時の応援協定を結んでいる千葉県浦安市とのスポーツ交流は、団員だけでなく指導者にも大きな刺激となっております。

近年、日本では、少子高齢化などの影響により、子供たちを取り巻く環境が大きく変化しており、スポーツ少年団の団員数においても、年々減少傾向にあります。

スポーツ少年団は、一人でも多くの子供たちにスポーツの喜びを提供し、ス



ポーツを通して「からだ」と「こころ」の成長を育むことができ、まさに最前線で子どもたちへスポーツ教育を教える役割も担っていると考えております。スポーツ少年団の役割は、こ

ACP普及促進研修会

平成29年10月14日(土)・11月11日(土)・11月18日(土)

鹿嶋市
日立市
東海村

普及広報委員 米川 優

日本体育協会が平成二十六年に作成した「アクティブ・チャイルド・プログラム」の普及研修会が十一月十一日、日立市十王スポーツ広場体育館で開催されました。

講師にACP講師である古河市スポーツ少年団副部長の峰淳一先生をお迎えし、午前の部は理論編として幼少期の体力の変化や身体活動について、少年団の現状と課題について、また幼少期の子どもの運動の必要性や幼児に対しての指導法や注意点などのお話がありました。

午後の実技編では、ロープ、新聞紙、ボールなどを使った運動遊びを実践しました。大人もつい夢中になってしまいうほど楽しめる運動で普段の少年団の活動に取り入れてもらえれば、子ども達も楽しく自然と身体を動かすことが出来ると感じました。

この研修会は全国で展開されており、今年度茨城県では三会場(鹿嶋市、日立市、東海村)で開催されました。幼児



れからの時代、ますます重要になってくると感じております。今回の賞を励みに、子供たちの充実した未来のためにも、よりいっそう団活動に精進して参りたいと思います。ありがとうございました。

や保護者を対象にした活動プログラムで、今年度より三歳児からの入団が可能となったこともあり、遊びを取り入れた動き作りや楽しくスポーツに親しむといった観点から指導者自身も指導方法など知識や幅を広げていかなければならない時期に来ていると感じています。

一人でも多くの指導者の方に参加していただくとともに、今後の指導に活かしていただき、幼児期の団員加入促進に繋げていただければと思います。

ACPとは？

アクティブ・チャイルド・プログラムは、日本体育協会によって子どもが発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムとして開発されました。ACP普及促進研修会は、子どもたちが楽しみながら積極的にからだを動かすための指導法を学ぶ指導者に向けた研修会です。

スポーツ少年団指導者研修会

平成29年9月2日(土)
筑西市・明野公民館

常総市スポーツ少年団

副本部長 田中 秀子

平成七年七月七日、石下小学校中心のミニバスケットボールのチームを立ち上げました。自分の経験を我が子や地域の子どもたちに広めバスケットボールの土台を作ることが出来たら、という考えからです。たくさんの方々に協力していただき、活動して二十三年目になりました。現在はOB・OGの子どもたちが入団するようにもなり、月日が経つのは早いものです。過去から現在と繋げてこられた幸せをつくづく感じます。

九月二日に行われた指導者研修会では、平成三十年に茨城県



で全国スポーツ少年大会が開催されるということで、前年度の開催地である新潟県スポーツ少年団副本部長の池藤仁市さんの講演を聞き、考え方から活動方法、役割などわかりやすく説明があり、研修会に参加した方、全国大会に携わる方々も大きな力と勇気をいただいたと思います。茨城県でも成功することが恩返しとなり、次に繋げなければならぬと感じました。

今まで少年団の行事には積極的に参加し協力してきたつもりでしたが、全国スポーツ少年大会については詳しく理解していませんでした。グループディスカッションでは、チーム事情の意見交換の他に全国大会のことも詳しく教えていただき、指導者から教え子へ、そして教え子が指導者となり教え子へ糧を繋げていくための活動であることがわかりました。

常総市では、川の氾濫により全国の方々に助けていただき二年が過ぎ、やっと落ち着いた生活になってきたところです。助け合い、協力し合うことは、人と人を繋げるということをし、身をもって体験しました。

これから先、指導していく上



で勝ち負けも大切ですが、心も体も成長過程の子どもたちの可能性を考え、いろいろなことに挑戦させ、自分の能力ややり甲斐を見つけ出していけるように、女性ならではの母として、いや祖母としての優しさや厳しさで子どもたちの成長を見守り、愛をもって指導していきたいと思っています。それが繋がっていくということだからです。



スポーツ少年団

女性指導者フォーラム

1月13日
石岡市

牛久市スポーツ少年団

指導者 鈴木 繁美

初めて参加しました女性指導者フォーラムで、順天堂大学女性スポーツセンター長の小笠原悦子先生から「女性アスリート育成のための身体的・心理的・社会的問題」をテーマにした講演がありました。

近年、若い女性アスリートが活躍されている中で女性の指導者数が日本ではまだまだ少ないとお話がありました。スポーツ界の中で男性コーチから女性アスリートに対して不適切行為があったことも記憶に新しいです。指導者育成、特に女性指導者育成が海外に比べ遅れているのではないかと感じました。また現役女性アスリートは現役引退後指導者の道を進みたいと望んでいる方が多いと聞きました。これから女性指導者・女性アスリート強化支援が幼児スポーツから社会人まで広がればよいと思います。

またグループディスカッションでは、「スポーツ少年団の現状と課題」についていろいろなスポーツ少年団の関係者方と意見交換を行いました。入会が少ない・親が携われなく子どもが

参加できないなど共通することが多くありました。

大げさではありませんが、指導者は子どもの未来を左右させると思います。だからこそ、子ども達が楽しくできる雰囲気を作り、長くスポーツを続けて次のステップへとバトンを渡せるように努力していきたいと思っています。自分達の目線ではなく、子ども達の視点になって教えていくことが大切だと改めて気づきました。スポーツを本当に楽しむために子ども達にどうしてあげたらいいのかを考えることも楽しみの一つです。そして多



平成29年度

ジュニアリーダーズスクール

6月24日
～25日
茨城県中央
青年の家11月18日
～19日
水戸市少年
自然の家

第1回

つくば鬼ゴッターズ

スポーツ少年団

梶谷 駿登

ジュニアリーダーズスクールを振り返って、第一の目標としていた「友達をつくる」が達成できたことがうれしかったです。

しかし一週間ほど前にけがをしてしまい、体力テストやレクリエーションなど一部できないものもあったので、二番目の目標の「全力でやる」というのが達成できませんでした。

講義では、今まで知らなかったスポーツ少年団について知ることができとても勉強になりました。とくにスポーツ少年団の歴史で、今から五十五年前からこの活動を行っているということがとてもびっくりしました。ほかにもドイツと日本の関係やスポーツ少年団のしくみなどいろいろなことを知ることができてよかったです。講義の休み時間やレクリエーションの時間などにみんなと楽しく話すことができ、仲良くなれました。また、グループ活動でも、班のみんなと仲良くすることができ、友達

もできたのでよかったです。

僕は、このジュニアリーダーズスクールをとおして、スポーツ少年団の歴史、活動、協力の重要性、リーダーとしての自覚について学ぶことができ、とてもよかったです。



第2回

成沢バドミントン

スポーツ少年団

山本 ゆら

この講義で私は、スポーツ少年団のリーダーとは何かを学びました。その講義では、スポーツ少年団で単位団活動をしなから年下の団員のまとめ役や指導者のお手伝いをする団員のことを『リーダー』と呼んでいることを知りました。私はそのリーダーに望まれることは何か調べてみました。そして分かったこ

とは、団員の気持ちや考えを聞いてあげ、団全体のことを考えて活動していくことができる人がリーダーに望まれる人ということを知りました。

そして、そのようなリーダーになるには、グループをまとめしていく力とグループを目標に向ける力を身につけることが大切ということを知り、集団をまとめる働きと集団を目標に向ける働きの二つをすると、メンバーからの信頼と支持が得られるということを知りました。

私は、この信頼と支持の二つを知り、私がリーダーになったら自分から積極的に指導者のお手伝いをしたり、年下のめんどろをみたりできるリーダーになりたいと思いました。



第55回

全国スポーツ少年大会

平成29年7月28日～31日 新潟県・国立妙高青少年自然の家

東金沢バドミントン

スポーツ少年団

小泉 彩楓

私は第五十五回全国スポーツ少年大会に参加して学んだことが二つあります。

一つ目は、友達と話すことの大切さです。私は人見知りする性格なので、他の県の人と話せるか心配でした。でも、同じ部屋の人達はとてもフレンドリーですぐ仲良くなることができました。友達がいたからこそ楽しく過ごせたと思います。

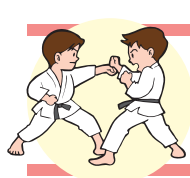
二つ目は、自分で考え行動することの必要性です。私は茨城県代表で日本スポーツ少年団団員綱領を朗読しました。練習の時は緊張しましたが、本番ではあまり緊張せず、どのように読んで朗読することができました。この他にも、さまざまな活動をしていく中で、自分が行動することにより良くなることはなにかを常に考え、行動に移すことができた場面が多くありました。今回、新潟県妙高市で学んだ事はたくさんあります。第五十六回目の全国スポーツ少年大会は茨城県で行われます。私

は新潟県で最高の思い出ができたので、茨城県に来てくれた人に最高の思い出ができ、笑顔あふれる第五十六回全国スポーツ少年大会にしたいです。

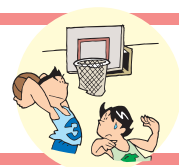


ジュニアリーダーズスクールとは？

単位団において団員の模範となって活動を行なう団員を育成することを目的とし、茨城県では小学5年生から中学3年生までの団員を対象に、年に2回1泊2日で行われている。参加者はジュニアリーダーとして認定されます。積極的な参加をお待ちしています。



一年のあゆみ



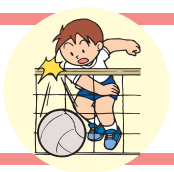
第53回茨城県スポーツ少年団大会
7月22日～7月24日（行方市・白浜少年自然の家）



ジュニアリーダースクール
6月24日～6月25日（土浦市・中央青年の家）

認定員養成講習会
6月10日～2月4日（日立市他11会場）





一年のあゆみ



第34回茨城県スポーツ少年団スポーツ大会
5月28日～12月10日（剣道他14競技）



第44回日独同時交流派遣事業
7月31日～8月17日（ドイツ）



第44回日独同時交流受入事業
7月31日～8月5日（牛久市）



がんばっていきます！

水戸 ゴールドスターズアイスホッケー アイスホッケー少年団

団長 三島 光博

ゴールドスターズアイスホッケー少年団は、平成十五年に発足した県内唯一のアイスホッケーチームです。

平成二十九年度の活動は、県全域より参加する未就学児から小学六年生までの二五名で、活動場所は笠松運動公園内スケートリンクや近県スケートリンクを利用しています。

スマイルジャパンのオリンピック出場で認知度がアップしているアイスホッケーの魅力は、スピードと激しさにあり、氷上の格闘技とも言われます。しかし、小学生までは激しく体をぶつけることを禁止していますので、防具着用とあわせてより安全なスポーツです。

チームの目標の関東少年アイスホッケー選手権の優勝を目指し、夏季は陸上練習、冬季は氷上練習に一生懸命取り組んでいます。

アイスホッケーを通じ、「一生懸命がんばる心」と「アイスホッケーをできる事と協力してくれる全ての人に感謝する心」を育てていきたいと考えています。

近年、水戸ホーリーホックトライブの立ち上げにより、中学でも競技を継続できる環境が整

い、より多くの子ども達に興味をもってもらえるよう情報発信や活動に頑張ります。



県北 久米ソフトボールスポーツ少年団

指導者 小林 知久

久米ソフトボールスポーツ少年団は、昭和四十七年に現代表である、半井清夫先生により地域の子どもたちにスポーツ促進を願い創設しました。

ソフトボールにこだわることなく、夏にはキャンプや水泳教室、冬にはスキー教室や駅伝大会に参加し、心身を鍛え青少年の育成を目的として活動しています。

茨城県ソフトボール連盟に平成二十三年に登録し、平成二十八年度夏の茨城県予選会で見事第三位となり関東大会に初

出場しました。この経験を次の世代に引き継ぎ、平成二十九年度春の茨城県大会で念願の初優勝し、静岡県掛川市で行われた第十回春季全国小学生男子ソフトボール大会に初出場しました。二回戦で敗退しましたが、団員・指導者・保護者が一丸となって出場できた事はとても嬉しかったです。

今後子どもたちと共に更に活気あるスポーツ少年団になる様努力していきます。



鹿行 麻生サッカースポーツ少年団

代表指導者 茂木 勇佑

行方市は、アントラーズのホームタウン鹿行地区五市のうちの一つであり、サッカーが盛んな地域です。麻生サッカースポーツ少年団では、小学二年生から小学六年生まで二十一名の団員がおり、週三回の練習をしています。主な活動として、四月から九月まで行われるリーグ戦の参加や鹿行地区で開催される大会への参加をしています。

今年度の成績は、第四十四回茨城県学年別サッカー大会高学年の部と低学年とともに県大会出場を果たしました。

新たな試みとして、サッカーを通して地域活性化を目指そうという思いから、行方市商工会青年部の行方ふるさと活性化委員会として連携して、イベント「サンセットフェスティン天王崎二〇一七」の環として、フットサル大会を企画し成功を収めました。



練習や大会だけでなく、イベントや食事会等を企画して指導者または先輩として、気軽に居れる環境づくりを行っています。一人でも多くの人にサッカーの楽しさを伝え、サッカーの技術や体力づくりだけでなく、礼儀やあいさつ、学校や普段の生活についても一生懸命取り組むことを大切に、子ども達の無限の可能性を追求したいと思っています。

県南 つくばユナイテッド サンガイアスポーツ少年団

代表指導者 小関 美沙

バレーボール国内最高峰リーグ・Vリーグに所属するつくばユナイテッドSUNGAI Aのジュニアチームとして活動しています。日々のバレーボールの練習では、「どんな時も元気に楽しく」をモットーに、実際にVリーグで活躍している選手やチームを引退したOB選手、そして専門的な知識をもったチームスタッフが指導しています。

幼少期や初心者の方のメンバーには、バレーボールの楽しさを伝えるだけではなく、バレーボールの競技の特性を生かして友達を作り、ルールやマナーを守って楽しく遊ぶという目的で練習を行っています。また、小学校高学年や上級者になると、様々な大会に出場し、チームメイトと目標を共有して日々上達を目指して努力しています。その練習においても、SUNGAI Aの選手やOB選手が、実際に自



らがVリーグの選手になるまでの取り組みや経験を生かし、専門的な技術や目標を目指す姿勢などを子ども達に伝えながら指導しています。卒団時には、今までの頑張りをお互いに称えパーベキューやパークゴルフをしながら和やかな卒団会で交流を深め、定期的に卒団生が集まって在団生と一緒に練習するなど、卒団してから子ども達も帰ってくる場所としてふるさとのようなチームになるよう心がけています。バレーボールというスポーツに取り組んだことによって、技術や体力が身につくだけでなく、コミュニケーション力や人間関係を形成する力を身に付け、立

西 八千代町剣道 スポーツ少年団

後援会会長 荒井 郁美

派な大人になることを願いながら、選手達は日々指導に当たっています。バレーボールがもつ魅力を最大限に地域に生かせる団体でありたいという思いを熱くもち続け、これからも頑張ろうと思います。

八千代町剣道スポーツ少年団は現在幼児二名、小学生九名、中学生八名、計十九名で活動しています。練習は週四日、町の体育館で行っており、そのうちの一日は自由参加となっております。これは、団員である子どもたちの自発性を促すという目的があります。

当初は、学年や入団時期が各々違うため、体力や技量にもバラつきがありました。しかし、今ではそれを感じさせない勢いと活気に満ち溢れた子どもたちです。

日々の稽古の成果を試す場として、八千代町近隣大会や、茨城県スポーツ少年団が主催の大きな大会にも積極的に参加しています。夏休みには、武道家憧れの地である日本武道館での大会へ出場し、大変貴重な経験を得ることができました。

夏の厳しい暑さの中でも、凍てつくような寒さの中でも、一生懸命鍛稽古に取り組むことにより、己の中にある弱い心を強くする力を身に付け、心身共に鍛えることができます。



剣道は、礼に始まり礼に終わります。特に、挨拶などの礼儀作法を重んじ、厳格に行われる競技です。試合に勝つことだけが目的ではなく、自分自身の心を磨き鍛えること。そして、感謝の気持ちをもって鍛錬に励むということを経古の中で学んでいます。

目標を掲げ切磋琢磨している子どもたちと、熱心にご指導くださる先生方。私たち保護者はそんな先生方に感謝の意を表すとともに、これからも子どもたちの成長を見守り応援していきたいと思っています。

第53回

スポーツ少年団大会

7月22日
～24日
行方市

久米ソフトボール

スポーツ少年団

江口 諒

僕は少年団大会でたくさんのことを学びました。その中でも一番心に残った言葉は「協力」です。なぜなら、少年団大会では旗作りや飯ごう炊さんなど班で協力しなければできないことがたくさんあったからです。とくに飯ごう炊さんは、火おこしをしたり、包丁を使ったり、危険なこと、大変なこともありましたが、でも班のみんなと協力し、一生けんめい行動したのでおいしくつくることができました。後かたづけでは、スプーンがなくなるトラブルがあり、みんなが探しました。結局見つからなかったけど、班のみんなが協力して探せたのでよかったです。みんなと楽しく最高のカレーを作ることができました。

もう一つに残った言葉があります。それは「勇気」です。一日目に旗作りをしました。その時はまだみんなと慣れていなかったたのでみんなと協力して出来るかとても不安でした。思うように声も出ず、旗作りの前半が終わってしまいました。後半こそは声を出そうと思ってはい



ましたが、思うように口が動いてくれませんでした。このままじゃだめだと思い、勇気をふりしぼって、声を出してみました。すると「それ、いいね。」と言われました。その言葉に不安は打ち消され、不安は自信に変わりました。自信をつけた僕は、たくさん意見を出しました。班でどんな意見を出しあい、三班の最高の旗が出来上がりました。旗作りや飯ごう炊さんの他にもたくさんさんの思い出があります。この研修で学んだ二つの言葉「協力」「勇気」この言葉を心にきざみ、少年団をひっぱってきたいです。この研修で学んだことは、一生の思い出になると僕は思います。

茨城県スポーツ少年団リーダー会より

会長 森泉 怜

皆さんこんにちは。早いものでスポーツ少年団一大イベントである全国スポーツ少年大会の開催まで残り約半年となりました。私たちリーダー会は全国大会の成功に向けて準備に取り組んでおります。

リーダー会では、県スポーツ少年団大会やジュニアリーダースクールなどの交流活動やボランティア活動を通じて県内・県外様々な場所での沢山の友人を作ることができ、有意義な時間を過ごすことができます。それらのイベントの中で最大のものが全国スポーツ少年大会です。この記事を読んだことがきっかけでリーダー会に興味を持ち、参加したいと思っていただければ幸いです。

私たちリーダー会は、全国スポーツ少年大会を「必ず」成功させたいと思います。まだリーダー会に入っていないけれど、参加してみたい方、入っていない方、全国から少年団の仲間たちを迎えるにあたり、まだまだ多くのリーダーの参加が必要です。積極的な参加をよろしくお願いします。



傷害保険

賠償責任保険

突然死葬祭費用保険

スポーツ安全保険

対象となる事故 団体活動中の事故／往復中の事故

保険期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

(申込受付は平成30年3月から)

スポーツ活動・文化活動・レクリエーション活動・ボランティア活動・地域活動を行う **4名以上** のアマチュアの団体をご加入になれます。

※掛金は年齢・活動内容・補償内容等で異なります。

▼詳しくは、ホームページまたはお電話でご確認ください。

【お問い合わせ先】

公益財団法人スポーツ安全協会茨城県支部

Tel:029-297-7600 (受付時間:平日8時30分～17時)

※インターネットからも

スポーツ安全協会

検索

加入を受け付けております。平成29年12月作成 17-TC01007



第56回全国スポーツ少年大会 が茨城県にて開催されます!!



期日：平成30年8月2日(木)～5日(日)

会場：行方市・鹿嶋市・潮来市



まだまだ大会をサポート
してくれるリーダーを
募集しているよ!

詳しくは茨城県体育協会
HPにアクセスしてね!

編集後記

来年度は全国スポーツ少年大会が行方市で開催されます。皆様にもご協力をいただく場面も出てくると思います。何かとお手数をお掛けいたしますが、行方市としても万全な体制で臨んでいく所存でございます。

広報委員として、皆様に色々な情報を提供していきたいと思っておりますので今後ともよろしくお願いいたします。

最後に、広報誌の発行にあたりまして、ご多忙のところ、本誌への寄稿・写真提供にご協力いただいた方々に心から御礼を申し上げます。

(行方市本部長 川島信義)

○普及・広報委員会

委員長 友部 静江
副委員長 水野 幸男
委員 谷 幸雄
川 信義
米 優
井 一
草 山
山 美和子